

会 市 医 師 会
小 牧 市 医 師 会
医 師
芳 村 裕

胃・十二指腸 潰瘍のなりたち

胃・十二指腸潰瘍(かいよう)とはどのような病気でその原因は何なのかを探ってみようと思えます。手入れのされていない金属の鍋(なべ)や釜(かま)をそのままにしておくときびが生じ、やがては朽ちて穴が開いてしまいますね。これは酸化作用によって金属が酸に溶かされてしまうからなのです。潰瘍はちょうどこれと同じように胃液

症状が軽いうちに検査を

はふだんでも胃液がたっぷりあり、潰瘍の原因の一番手の胃液中の胃酸が最大の悪役を演じているわけですが実際にはそう簡単に潰瘍にならないものなのです。
なぜなら、それはいま流行のサッカーの試合のように胃・十二指腸粘膜というグラウンド内で攻撃側と防御側とが激しい攻防を繰り返しておりますが、平

中に含まれる胃酸によって胃や十二指腸の壁(粘膜)が溶かされ、深く掘れてしまう病気なのです。

そのために食欲が落ちたり、吐き気や腹痛、ときには出血をみることもありますので、症状が軽いうちに胃力メラなどで検査を受けることをお勧めします。

そもそも、私たちの胃の中に

常では防御側もしっかり守り、双方とも力が均衡し、攻守のバランスがとれているため、ゴールされませんが防御側の一部でも弱いところがあると一気に攻撃側にすきを突かれ、得点(潰瘍形成)されてしまいます。

攻撃側のメンバーにはキャプテンの胃酸それにペプシン、ガストリン、ストレス、暴飲暴食、喫煙、粘膜刺激性の薬剤などが

あげられ、一方、防御側のメンバーとしては胃・十二指腸粘膜バリアー、粘膜血流、十二指腸における胃酸中和能などがあり、互いにしのぎをけずっています。さらに潰瘍というものをからだ全体の問題として考えた場合、その人の持っている体質とか性格も潰瘍形成の原因にもなり心身症の一部とみることもできます。

